

著書紹介

著者自らが近刊を紹介します。

Academic Library



「病的嫉妬の臨床研究」

医療福祉学部教授 高橋俊彦

▼A5判/186ページ/岩崎学術出版社/3,360円(税込み)/2006.6.5発行

▼嫉妬は性別を問わず生じ得るが、家庭内の性別役割期待、あるいは日常的な人間関係社会への帰属意識のあり方などにより、その現れ方には男女差があり得る。まず嫉妬の定義、特にねたみ、羨望との比較を検討した。さらに精神科の臨床における病的嫉妬、特に嫉妬妄想例を考察した。



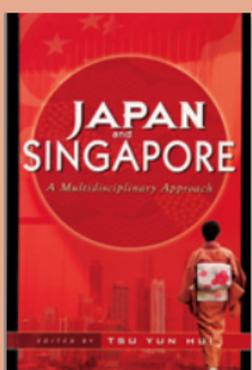
「構音訓練のためのドリルブック」

医療福祉学部言語聴覚学専攻教授

加藤正子(共著)

▼B5判/219ページ/協同書房/3,000円/2006.7.21発行

▼通常の構音訓練では、様々な音脈からなる単語で、語音の正しい構音操作を系統的に学習させる。この本は訓練音が語内位置で分類され、構音障害の子供を訓練する時に役立つ。第2版では幼児に馴染みやすい語彙の修正・拡大と語彙のイラストを豊富に掲載した。



「Japan and Singapore :

A Multidisciplinary Approach」

現代社会学部教授 清水洋

(Tsu Yun Hui編著)

▼153×227mm/319ページ/McGraw-Hill Education/32米ドル/2006.8発行

▼本書は、シンガポール・香港・イスラエル・日本のアジア研究の専門家による国際共同研究の成果であり、日本のシンガポールとのかかわりを歴史・文化・経済・教育・ジェンダー等の視点から学際的に考察。11章からの構成となっており、本人は第3章(戦前期日本の対シンガポール貿易拡張における華商とインド商の役割)と第5章(日本の対シンガポール直接投資)を執筆。



「表象としての母性」

文化創造学部多元文化専攻教授 平林美都子

▼四六判/223ページ/ミネルヴァ書房/3,500円+税/2006.6.10発行

▼本書は主に英語圏文学と英語作品における母性の表象分析をした。通史的観点から母性の言説がどのように変容したのかを概観、また歴史を超えた家父長制社会における母性観からは、母娘関係と母の身体のごシック的要素の二つを中心テーマにたてて考察した。



「私の愛した地球博」

現代社会学部助教授 小川明子

(加藤晴明、岡田朋之と共著)

▼A5判/254ページ/リベルタ出版/1,700円+税/2006.7.14発行

▼「愛知だけ万博」と揶揄されながらも、東京の視点からは想像もできない熱狂と愛着が増幅した「愛・地球博」。シニア&団塊世代のリピーターに支えられ、国家イベントから「個人の万博」へと変貌する過程をつぶさに観察したメディア研究家たちが、リピーター、ボランティア、学生、市民パビリオンの仕掛け人らのコラムを収集し、地元住民の目線からこのイベントを総括した一冊。